



参加児童 **家庭用**

みねまりのかに

水沼縣の田園風景的民泊

滞在型子ども都市と農村交流事業

おおきにきたっこプロジェクト30



平成30年10月6～7日

おおきふるさと子ども夢学校ネットワーク

春日市スポーツ少年団

★ 「子ども夢学校」は、総務省・農林水産省・文部科学省・環境省が連携・応援している事業です。

★ 「おおきに きたっこ (OK)プロジェクト」は、大木町に来てくれた子ども達、ありがとう、という意味です。OKは、大木町のO、春日市のKを用いています。

このプロジェクトの目的は……

◎ 都市部と農村の人の交流で、絆(きずな=相互理解と共存)をはぐくむことです。

1 大木町は……

- ① 農業が中心の町です。米・麦・大豆・きのこ・アスパラ・いちごなど
- ② 堀がたくさんあり、自然がいっぱいの町です。
- ③ ごみ0をめざして、「もったいない」宣言をした環境の町です。

2 このプロジェクトを通して、

- ① 大木町の「お父さん・お母さん」といっしょに農作業やお手伝いをして、家族の一員として、社会のきまりや生活のしかた、食の大切さを学びましょう。
- ② なれない環境の中で、はじめての体験に挑戦したり、課題を乗り越えたりする力をつけましょう。
- ③ はじめて出会う人とどう接すればよいかなど、人とのつながりをどうつくっていったらいいかを考えてみましょう。

3 受入家庭のホスト・ファミリーは…

- ① 子ども達のために、その家庭毎に個性的な体験プログラムを用意しています。
- ② 子ども達に無理なくなじんでもらえるように、家庭のプロフィールとメッセージを事前に届けます。
- ③ お客様あつかいはせずに、家族の一員としてむかえます。
- ④ 安全安心のために、施設設備を点検します。堀での活動にはライフジャケットなどを用意します。



活動の全体スケジュール(予定)

日	時間	内 容	備 考
一日目 10 / 6 土曜日	朝 10:00 10:30 11:00 14:00 夕方	春日市を出発 大木町役場・子育て交流センター到着 オリエンテーション「大木町の歴史・文化・景観」 歓迎式 ①受入組織：夢学校ネットワーク代表挨拶 ②夢学校長（石川町長）のあいさつ ③スポーツ少年団代表のあいさつ ④子ども代表のあいさつ ⑤受入家庭の紹介と対面 <input type="checkbox"/> 各受入家庭へ車で移動 <input type="checkbox"/> 各家庭で昼食 / 自己紹介や日程説明 ・家庭内のルール確認（「健康調べ」チェック） <input type="checkbox"/> 付近の散策など ◇堀の探検や近くのお宮などの見学 ◇農作業体験① ◇夕食づくり ※収穫した野菜などを使った料理 <input type="checkbox"/> 食事、入浴、団らの時間 <input type="checkbox"/> 記録簿記入・就寝	前日会場準備 ホストファミリー受付 10:00～ 児童弁当持参 ■ 引率者巡回 ◆ 打合せ
二日目 10 / 7 日曜日	朝 9:00 13:00 14:00 14:30 15:00 16:30	<input type="checkbox"/> 起床 <input type="checkbox"/> 朝食準備と朝食（「健康調べ」チェック） <input type="checkbox"/> 農業・農村体験② <input type="checkbox"/> 昼食・・・手軽な郷土食・お茶の子 <input type="checkbox"/> 後片付け <input type="checkbox"/> お礼の手紙書き・出発準備 <input type="checkbox"/> （集合）子育て交流センター2階集会室 <input type="checkbox"/> お礼の手紙→コピー2枚ずつ ※各家庭毎に記念撮影 お別れ式 ①ネットワーク代表あいさつ ②夢学校長（石川町長）あいさつ ③受入家庭代表感想発表 ④子ども代表感想発表（2名） ⑤スポーツ少年団代表あいさつ ※全体で記念撮影（外）→荷物をバスに積み込む； 大木町を出発 春日市に到着	各家庭による準備のお手伝い ■ 引率者巡回及び共同体験 掃除・荷物点検（忘れ物がないように）

※ スケジュールは、天候などによって変更する場合があります。

☆ 「こんな体験プログラムもあります」

～農作業や生活体験・団らん・散策の中で経験できます～

- ◎ 農作業のお手伝いや体験
 - ・花や作物への水やり、・草取り、・株分け、・収穫（稲刈り）、
 - ・定植、・種まき
- ◎ 堀割を知る、楽しむ
 - ・投網や仕掛けでの生き物調べ、・魚釣り、・ハンギリ体験、
 - ・堀のしくみと役割、カヌーで堀割からの景観
- ◎ 農村の自然を知る
 - ・田んぼや畑の生き物（トンボなどの昆虫、ヘビなどのは虫類、カエルなどの両生類、カイツブリ・サギなどの鳥類、ドブガイなどの貝類、テナガエビなどの甲殻類
 - ※作物の害虫と益虫と「ただの虫」
 - ・水辺の植物、道ばたや畦の雑草調べ
 - ・外来生物の影響
- ◎ 天体観測を楽しむ・・・空が広い大木町の空を眺めて
 - ・お月見、星（星座）の観察、・夕焼け・朝焼けのながめ
- ◎ 近くの施設見学と体験・・・大木町のよさを味わう
 - ・鞆庵（ふいごあん）＝昔の農具や道具など、
 - ・石丸山公園＝堀の道具など、い草の加工・道の駅（夢市場）
 - ・寺社の壁画や絵馬、狛犬
 - ・きのこ工場、・製菓工場、
- ◎ 田舎を味わう・・・郷土料理指南（調理と食事）＝食育
 - ・だご汁、ごろし、ふなやき、黒枝豆
- ◎ 動物の世話・・・生き物とのふれ合い
 - ・犬の散歩、鶏へのえさやりと採卵、メダカの世話、子豚を抱っこ
 - ・山羊の世話
- ◎ 循環型環境づくり体験＝家族としてまちづくりに参加
 - ・ごみの分別、生ゴミ出し、堆肥まき、環境プラザの見学
- ◎ 大木町を深く知るために・・・ひと・もの・こと
 - ・方言（固有な文化）、よど祭への参加、記念碑とその由来、
 - ・フィールドサイン（田や畑、家の周辺＝動物の足跡、糞、食べ跡）
 - ・作物の農事暦、地名の由来、
- ◎ 農村の文化・・・都会には今はない田舎のよさ
 - ・川まつりの習わし・お飾り、伝承あそび（手作り遊び）
 - ・い草製品（ござ・コースター）、
 - ・農家の蔵、かまどや土間のある暮らし、農村屋号

※ 各家庭が独自に行うプログラムでは、リクエストはできません。

★ 持ってくるもの

チェック	持ってくるもの	備考
	バッグ	荷物を一つにまとめて持ち運ぶため、下記の持参物を入れることができる大きさのものが望ましい。
	ナップザック	活動する場所に移動するとき、水筒・タオル、軍手などを入れます。
	長袖または半袖のシャツ	帰りに着用します。
	長袖シャツ 2 着	農作業時に着用します。2 日分です。
	長ズボンまたはジャージ	農作業時に着用します。
	軍手	農作業や体験時に使用
	ズックまたは長靴	農作業時に着用（汚れることを覚悟で）
	タオル 2 枚	農作業時に使用
	ジャージ& Tシャツなど	就寝時着用（長袖でも半袖でも可）
	下着・靴下 2 日分	
	ハンカチ（2 日分）	
	歯ブラシ	特別の歯磨き粉が必要な場合は持参
	エプロン	食事の準備時に使います。
	筆記用具	メモをしたり、健康調べや手紙を書いたりするときに使います。
	薬・生理用品	必要な人だけ
	水筒	水分補給用です。二日目はお願ひしましょう。
	弁当	初日の昼ご飯は各自弁当持参です。
	帽子	
	ビニル袋 2～3 枚	着替えや洗濯物を持ち帰ります。

※ 洗面や入浴時の石鹸・シャンプー、タオルなどは、ホストファミリーのものを使わせてもらいます。ただし、事情があって決められた物を使用したいときは、持参してください。

※ 持ち物には、必ず名前を書いておいて下さい。

※ 準備にあたり、購入はできるだけ最小限にして、家庭で用意できるものを利用して下さい。